

# 宮崎まちづくり活動団体情報

VOL 12



風越峠の南「西蔵」より富士山を望む

## 【歴史文化部会】

### 宮崎学区歴史文化探訪委員会（委員長 清水力さん）

#### ○宮小児童、雨山城址を探訪

令和4年2月19日、宮小児童18名に「地域を学ぶ会」の活動として「雨山城址」を紹介しました。当日は、風もなく穏やかで暖かい日和となりました。まず、雨山ダムの堰堤から雨山城址を見つけることから始めました。「あった、あそこだ！」と言いながら目的地を見つけることができました。さあ、雨山城址に向かいましょう。林道に入るとすぐに、案内看板の横に「ミツマタの光かがやく山の中」の俳句が有ります。「宮崎小学校6年の森田花音さんの作品で、中日新聞社賞を頂いた俳句です」と説明しました。さらに林道を進み見上げると、急斜面の所に雨山城址が有り簡単には攻められないことを実感しました。その先には、大きな岩があります。道を造る途中に岩盤に阻まれ、その後は人力で道を開いたという苦労話をしました。

出発から約30分、雨山城址に到着しました。風越峠、天使の森、雨山町の田圃や道路が見渡せること、峠の南側「西蔵」という所から富士山が視えることを説明しました。雨山城址の石柱を見て、どうやって運んだかという質問が有りました。尾根までは機械を使い、あとは人力で運んだことを伝えると驚いていました。帰路では少し下がった地点にある「狼煙場のろしほ」を説明、県道沿いにある「雨山合戦地と菅沼定村の墓」の説明をして雨山ダムに戻りました。

終わりの会では、「昔の人は何を食べていたのか」、「お城と言っても何も無い」、「山の傾斜が実感できた」、「敵の大将のお墓があるのは不思議」、「狼煙場を発掘するときは、また登りたい」など質問や意見が出て楽しい時間が過ごせました。雨山城址の活動は、始まったばかりであり、この活動を皆さんと一緒に続けていきたいと伝え「地域を学ぶ会」を終わりました。

## 【教育環境部会】

### 子どもの居場所づくり委員会（委員長 鈴木久義さん）

#### ○子ども教室児童6名と園児6名が森の遊びを体験

令和3年12月27日（月）、放課後子ども教室の支援事業として、体を使った遊びとミニ門松づくりをおこないました。指導は岡崎女子短期大学の山下教授と岡崎女子大学の春日教授にお願いしました。当日は残雪がありましたが、宮崎保育園庭にある既設の遊具にターザンロープをかけ、ネット登りが出来るように網を張り、ロープ渡りの網を張りました。丘の上から

は、雨どいを利用したどんぐりころがしを設置、参加者全員が元気よく体験することができました。からだ遊びの後には、集会室で民生委員・児童委員の清水朝子さんの指導でミニ門松を作りました。作品は、子供たちの個性が出て、素晴らしいものでした。自分が作ったミニ門松と楽しい正月を過ごしたことと思います。



【生活改善部会】

にぎわいつくり委員会(委員長 平木教男さん)

○農協宮崎店舗の今後の方向が示されました

令和4年2月24日、宮崎購買店舗経営担当の伊藤部長と中山間政策課小林課長を招き、梅村まちづくり協議会長と、加藤総代会長にも参加をいただき、喫茶ジューバ・グリーンで委員会を開きました。『農協購買店舗の存続・廃止は、支店閉店3年後に利用状況等を勘案して決定する』ということになっていた経緯があり、今年3月がその時期にあたります。そこで、今回は、農協店舗の今後の経営方針を確認するとともに地元の対応策を検討しました。購買店舗では、これまで観光客を取り込むなどのいろいろな対応をしてきましたが、利用者数は年々減少し、赤字が大きく増加。今年度の収支状況は、約400万円の赤字が見込まれ、経営改善の今後の見通しは立たないとのことでした。また、近くまで来てくれる移動販売車の利用が定着してきたこと、生協や通販を利用する家庭が増えたこと、予期せぬコロナ禍で店舗の売り上げ減少に拍車がかかったことなどの要因も考えられます。

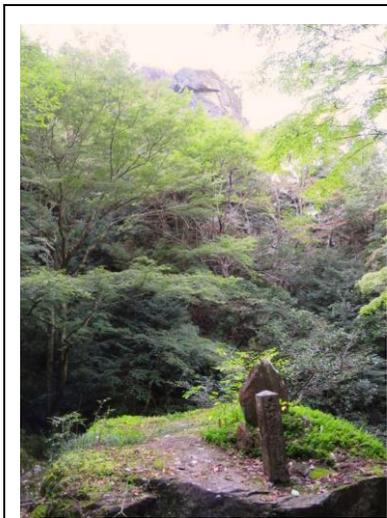
これらの事情を踏まえ2月理事会において「宮崎店舗は、1年間営業を継続するが、令和5年3月を以て閉店する」との決定がなされました。購買店舗閉店とそれにかかわる対応については、学区各町の農協総代さんへは3月22日(火)に農協額田支店で説明し、地域のみなさんには7月の地区別意見交換会で直接詳細な説明があるとのことでした。閉店後の生活物資購買への対応は、移動店舗車の増車を含め、販売箇所を増やすことについても検討するとのことでした。

当委員会は、農協・中山間政策課と協力して「農協建物の地元での有効活用等」について検討し、移動店舗車ではカバーしきれない購買機能をどう維持するかなども含めて農協建物を中心とした「町の小さな拠点」を育てることについて検討していきます。

【くらがり活性化部会】

くらがり活性化実行委員会(委員長 加山茂さん)

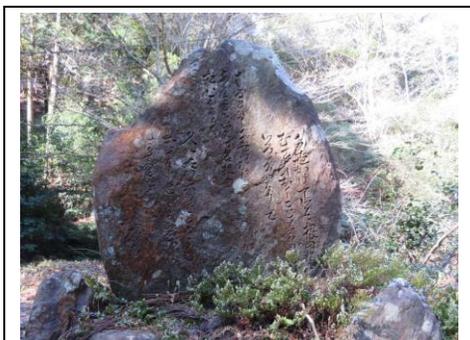
○くらがり八景 第2景 さるとび岩



猿飛岩と降り立つ大岩①

登山口より500mほど進むと猿飛橋(昭和10年10月竣工)、その先カーブし50m先に岩根橋(猿飛橋よりかなり新しい?)がある。両橋間の右手に古くからくらがりの名所として知られている『猿飛岩』がある。「猿があのかからこの岩まで飛んだ」「白蛇に追われた」「猪に追われた」との伝えがある。額田町教育委員会発行『碑探訪』(昭和52年刊)を抜粋した。

「乙川の清流が 岩をかみ銀沫の飛び散るところに奇岩の屹立すること数丈、その頂上に老松が枝を支える。往古猿がこの松より、道端の大岩に飛び降りたというので猿飛岩の名がある」と紹介している。巖上の老松は命脈つきて今は見ることができない。



三首の和歌が刻まれた磯丸句碑②

歌人糟谷磯丸は、ここ閼苅溪谷の天にそびえ立つ岩を仰いで、【久方の天つ乙女もおよぼじと かかる岩ほはなでのこしけん】と、造化の妙を詠嘆し、猿がこの巖頭から飛んだという古い言い伝えを岩上の松に託して追懐し、【さる

とびし千世のむかしのふることを いはで岩根の松はしるらん】と詠じ、また、これらの自分の歌が、松の緑のそのように後世まで残るようにとの願いをこめて、【千世かけて岩根の松にむすびおく こと葉の花もいろなかりけり】と、歌ったのである。この三首の和歌が、猿飛岩直下の溪流の平たい大きな石の上に、ひだの多い自然石に刻まれて立ち②、ここの風致をそえている。云々。

上記にあるように岩上にあった松の木は、今は古い観光案内物に写真で残るだけであるが、一段下がった2畳ほどの平らな岩場に次世代の松が生えている。飛び降りたとされる大岩には、磯丸の和歌石碑と「正一位砥鹿神社」の碑①が立つ。猿飛岩に対し反対側の登山道には、「山頂へ6.4 km くらがり八景 猿飛の岩 風ひかる岩上に雲流れては 朴水」と記した案内碑③がある。そこを見上げると杉の木の間に奇岩があり、訪れた観光客はこれを猿飛岩と思い込むようである。碑の移動または、伝説と岩の案内板が必要か? 夏場には水遊びでにぎわい、秋には、せせらぎ、紅葉、古い橋を撮り込んでSNSにアップされる場所でもある。紅葉は、樹種が多く、緑、黄、紅、赤、見上げれば猿飛の屹岩と青空。地元の皆様にも楽しんでいただきたい場所である。



道標と猿飛岩案内碑③

【清水のおすすめスポット】

「猿飛の岩」の案内碑のすぐ横に、道側に伸び出た「ウリカエデ」の木がある。幹が緑ばく「ウリ」の名が付いたようだが、葉は何とも言えないやさしい黄緑である。紅葉時期見上げればイロハモミジのグラデーションとウリカエデが心和ませてくれます。4~5月には花も楽しめます。